

令和3年12月2日

富山県美術館 TAD アート・レクチャー「肖像画は生き残れるか」

富山県美術館では、アーティストや研究者など、さまざまな角度で作品の魅力に迫る機会として、「TAD アート・レクチャー」を開催しています。

今回は、当館の雪山行二館長を講師に、「肖像画は生き残れるか」をテーマとしてレクチャーを行います。

概要

日時：令和3年12月18日（土曜日）午後2時～（約60分）（※）開場：午後1時30分

講師：雪山行二（富山県美術館 館長）

会場：富山県美術館・3階ホール

定員：50名程度／聴講無料、事前申込不要、先着順
ヒアリンググループシステムをご利用いただけます。

内容

講師よりメッセージ



世界で最初に肖像画を描いたのは誰か。

プリニウスの『博物誌』によれば、それは古代ギリシャのコリントスに住む、恋する一人の娘であったという。彼女は恋人が旅に出るという時、別離の悲しみに耐えかね、ランプの光で壁の上に映し出された彼の顔の影をなぞって、せめてその面影をとどめようとしたという。

この伝説の真偽はともかく、人は連綿と肖像画を描いてきた。特にヨーロッパでは中世末以降著しい発展を示し、レンブラント、ベラスケス、ゴヤのような巨匠を生んだ。しかし、19世紀後半に入ると写真の登場にもなって急速に衰退の傾向を示し、その役割も以前とは大きく異なるものとなった。

肖像画に未来はあるのか。肖像画とは何かということを考えてみたい。

新型コロナウイルス感染拡大防止に関するお願い事項

1. 館内では、マスクの着用、手指消毒の徹底をお願いいたします。
2. ホール入室の際に非接触型体温計での体温測定にご協力ください。（体調不良の方はご遠慮ください。）
3. 密集を避けるため、会場のホールでは前後両隣の間隔をあけて席を設けます。
4. ホール内では会話を極力ご遠慮ください。（ホールでの飲食はお断りしております。）

(※) 新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、日時等変更する場合がありますので予めご了承ください。

**MAKE
TOYAMA
STYLE**
BEYOND CORONA, WITH US

